

第 5 章 市民協働・行財政運営

～市民と行政が共に輝く未来をつくる～

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	輝くまちづくり交付金＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部市民協働推進課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	輝くまちづくり交付金を通じ、市民と行政が協働、連携して公益的な事業を実施することで、地域やまちの課題を共有し、課題解決を通じて地域の活性化につながる新たな取組を支援する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	2,398	2,873	1,536
	一般財源 (千円)	2,398	2,873	1,536
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	4,433	5,334	3,856
①	職員数 (人)	0.6	0.7	0.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		19.1	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果																																						
① 課題テーマに沿った提案事業の募集 ○2025年度の課題テーマ ・地域経済の活性化 ・地域を担う人材育成 ・安心して暮らせる都市 ・若い世代を社会全体で支える ○上記課題テーマに沿った提案事業を募集 (市ホームページ、広報くしろ、報道各社等の媒体を通じて事業を募集) ② プレゼンテーション審査会の開催 ○提案事業について、プレゼンテーション審査会を開催	① 課題テーマに沿った提案事業の募集 ○受付期間 2025年4月14日～5月12日 ○市内で活躍する市民団体等から、23事業の提案を受けた ② プレゼンテーション審査会の開催 ○23事業を審査し、19事業を採択(うち1事業辞退・1事業中止) <table border="1"> <thead> <tr> <th>採択事業</th><th>交付金額</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>チーム「つなくる」による防災出前講座</td><td>150千円</td></tr> <tr><td>くしろ子育て応援フェスティバル2025</td><td>300千円</td></tr> <tr><td>災害対策トレーニング in 釧路</td><td>400千円</td></tr> <tr><td>北大通謎解きクイズラリー</td><td>300千円</td></tr> <tr><td>美原から釧路活性化プロジェクト</td><td>200千円</td></tr> <tr><td>くしろキッズスポーツフェスティバル</td><td>230千円</td></tr> <tr><td>地域住民が活躍するフットパス・ガイドシステムの構築</td><td>220千円</td></tr> <tr><td>釧路の若者と“いま、ここ”を見つめるコピーワークショップ</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>公共交通を使って巡る！ 鬼霧シアンパネルラリー</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>釧路ジュニアジャズオーケストラwith椎名豊カルテットスペシャルジャズコンサート2025</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>あそび探究フェス</td><td>150千円</td></tr> <tr><td>まちなか遊び場事業</td><td>92千円</td></tr> <tr><td>釧路アイヌ文化情報発信支援事業</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>第19回釧路すえひろはしご酒大会・カラオケ大会</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>「手で触れてみる世界」映画鑑賞</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>くしろとおきプロジェクト</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>釧路散策マップ 毛網建築・富士見商店街 英語版 作成事業</td><td>100千円</td></tr> <tr><td>合計</td><td>2,842千円</td></tr> </tbody> </table> ※小数点以下、四捨五入	採択事業	交付金額	チーム「つなくる」による防災出前講座	150千円	くしろ子育て応援フェスティバル2025	300千円	災害対策トレーニング in 釧路	400千円	北大通謎解きクイズラリー	300千円	美原から釧路活性化プロジェクト	200千円	くしろキッズスポーツフェスティバル	230千円	地域住民が活躍するフットパス・ガイドシステムの構築	220千円	釧路の若者と“いま、ここ”を見つめるコピーワークショップ	100千円	公共交通を使って巡る！ 鬼霧シアンパネルラリー	100千円	釧路ジュニアジャズオーケストラwith椎名豊カルテットスペシャルジャズコンサート2025	100千円	あそび探究フェス	150千円	まちなか遊び場事業	92千円	釧路アイヌ文化情報発信支援事業	100千円	第19回釧路すえひろはしご酒大会・カラオケ大会	100千円	「手で触れてみる世界」映画鑑賞	100千円	くしろとおきプロジェクト	100千円	釧路散策マップ 毛網建築・富士見商店街 英語版 作成事業	100千円	合計	2,842千円
採択事業	交付金額																																						
チーム「つなくる」による防災出前講座	150千円																																						
くしろ子育て応援フェスティバル2025	300千円																																						
災害対策トレーニング in 釧路	400千円																																						
北大通謎解きクイズラリー	300千円																																						
美原から釧路活性化プロジェクト	200千円																																						
くしろキッズスポーツフェスティバル	230千円																																						
地域住民が活躍するフットパス・ガイドシステムの構築	220千円																																						
釧路の若者と“いま、ここ”を見つめるコピーワークショップ	100千円																																						
公共交通を使って巡る！ 鬼霧シアンパネルラリー	100千円																																						
釧路ジュニアジャズオーケストラwith椎名豊カルテットスペシャルジャズコンサート2025	100千円																																						
あそび探究フェス	150千円																																						
まちなか遊び場事業	92千円																																						
釧路アイヌ文化情報発信支援事業	100千円																																						
第19回釧路すえひろはしご酒大会・カラオケ大会	100千円																																						
「手で触れてみる世界」映画鑑賞	100千円																																						
くしろとおきプロジェクト	100千円																																						
釧路散策マップ 毛網建築・富士見商店街 英語版 作成事業	100千円																																						
合計	2,842千円																																						

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	縮小
課題	・市と団体等が役割分担しながら協働・連携をすることで、公益性と幅広い波及効果のある事業が、より効果的に実施できた。 ・今後も、市民と行政が協働実施することがふさわしい先進的な行政課題を具体化し、テーマとして設定できるよう、全庁に促していく。			課題	・市と団体等が役割分担しながら協働・連携をすることで、公益性と幅広い波及効果のある事業が、より効果的に実施できた。 ・今後も、市民と行政が協働実施することを全庁に促していく。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・輝くまちづくり交付金を通じて市民が地域社会の一員として、自主的にまちづくりに参加していただく意識づくりの本交付金事業を継続する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・市民と協働するまちづくりを推進する事業ではあるものの、財政健全化の必要性を踏まえ、令和9年度に廃止する。 ・今後は市民団体等からの事業提案については内容に応じて各担当課が対応し、特に市の政策に合致するものについては予算要求を行うなど、個別の対応を行うこととする。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	釧路市まちづくり基本構想推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	2018年度から2027年度までのまちづくりの指針である「釧路市まちづくり基本構想」の推進と周知を図る。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
(1) 出前講座等による啓発の実施 「目指すべきまちづくり」を同じく掲げる、「第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と併せて出前講座を実施 (2) 職員向け研修の実施等 (3) フォローアップ 釧路市まちづくり基本構想策定委員長(釧路市顧問)を迎えたフォローアップ会議の開催、基本構想の理念を政策に生かす予算の検討を実施	(1) 出前講座等による啓発の実施 「人口減少社会におけるまちづくり」 ・実施日 令和7年5月13日 ・対象者 釧路湿原シニア大学 50人 ・実施日 令和7年7月8日 ・対象者 釧路市立美原小学校 48人 「みんなで考えよう 釧路市まちづくり基本条例」 ・実施日 令和7年8月29日 ・対象者 釧路市立湖畔小学校 62人 ※ 講座内で「総合戦略」「基本構想」についても言及 (2) 職員向け研修の実施等、(3) フォローアップ 釧路市顧問を招き、一部の職員に向けて、基本構想の考え方や位置づけなどを講義する場を設けるとともに、今後の基本構想のあり方に関する意見交換を実施。 ・実施日 令和7年10月3日 ・参加者 16名 (企画課、マーケティング戦略室、観光振興室)

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
財源	事業費 総額 (千円)	145	46	150
	一般財源 (千円)	145	46	150
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	3,694	3,810	3,856
①	職員数 (人)	0.5	0.5	0.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		0.3	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	縮小
課題	・ まちづくりの指針である釧路市まちづくり基本構想を地域と共有するために、基本構想で位置付けた重点戦略を推進する必要がある。			課題	・ まちづくりの指針である釧路市まちづくり基本構想を地域と共有するために、基本構想で位置付けた重点戦略を推進する必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 釧路市まちづくり基本構想の推進と周知に努める。 ・ 釧路市まちづくり基本構想が令和9年度までの期間となっていることから、次期構想策定に向けた体制の整備・点検等を進める。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 現基本構想は令和9年度で計画期間を満了することや令和8年度から2か年で次期基本構想策定に取り組むことから、本事業を縮小する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 地方創生に関する総合戦略
目的と概要	釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の各種事業の着実な推進を図るため、外部委員で構成する会議においてフォローアップを行い、その内容について関係部署への情報共有を行う。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		113	95	163
財源	一般財源 (千円)	113	95	163
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	1,524	1,542
①	職員数 (人)	1.0	0.2	0.2
参考	市民一人あたりの費用 (円)		0.6	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
(1) フォローアップ KPI達成度合・掲載事業の実施状況や第2期総合戦略の検証などの報告と意見交換を「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議(以下、「推進会議」)」にて実施 (2) 市民周知 HP、出前講座等 (3) 交付金事業の進捗管理	(1) フォローアップ 令和7年10月6日に開催した第1回推進会議において、KP1や数値目標の達成度合を含めた施策の進捗結果について説明し、外部委員の客観的、専門的な視点から助言を得た。 (2) 市民周知 ・推進会議の模様については、市HPIに掲載し、市民周知を図った。 ・出前講座等 「人口減少社会におけるまちづくり」 ・実施日 令和7年5月13日 ・対象者 釧路湿原シニア大学 50人 ・実施日 令和7年7月8日 ・対象者 釧路市立美原小学校 48人 「みんなで考えよう 釧路市まちづくり基本条例」 ・実施日 令和7年8月29日 ・対象者 釧路市立湖畔小学校 62人 ※ 講座内で「総合戦略」「基本構想」についても言及 (3) 交付金事業の進捗管理 第1回推進会議において、令和6年度の国の交付金事業についての施策の進捗状況を説明し、外部委員からの助言を得た。

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 第3期総合戦略に定める施策について推進するとともに、地域経済に影響を及ぼす社会情勢の変化を注視し、必要に応じて、施策等の見直しを検討する必要がある。			課題	・ 第3期総合戦略に定める施策について推進するとともに、地域経済に影響を及ぼす社会情勢の変化を注視し、必要に応じて、施策等の見直しを検討する必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 外部委員の意見等を踏まえた総合戦略の推進を図る。 ・ 国の地方創生施策に注視し、積極的な交付金の活用を図る。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 外部委員の意見等を踏まえた総合戦略の推進を図る。 ・ 国の地方創生施策に注視し、積極的な交付金の活用を図る。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	ふるさと納税推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	マーケティング戦略室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	釧路市を応援するファンを増やし、地域への経済効果を高めるとともに、厳しい財政状況の中で自主財源を確保するため、「ふるさと納税」のPR促進、簡易に寄附できる環境整備、釧路市の特産品贈呈等により寄附を募る。また、次年度以降の寄附の継続を促進し、歳入の確保及び増額に努める。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		1,008,413	1,175,215	1,343,739
財源	一般財源 (千円)	1,008,413	1,175,215	1,343,739
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	9,604	9,906	10,024
①	職員数 (人)	1.3	1.3	1.3
参考	市民一人あたりの費用 (円)		7,824.3	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果												
令和7年度目標：令和6年度の件数、寄附額ともに上回ること 令和6年度実績 98,803件 1,936,465,124円 (1)積極的なPR活動の展開 ・ふるさと会、同窓会等へのパンフレットの送付 ・ホームページの整備 ・首都圏でのふるさと納税のリアルイベントでのPR (2)寄附しやすい環境づくり ①インターネットを介した申込フォーム導入 ・新たな申込サービスを導入し、寄附者の獲得を図る。 《参考》 令和5年度:「まいふる」「一休.comふるさと納税」を導入 令和6年度:「JRE MALLふるさと納税」「マイナビふるさと納税」「STAYNAVIふるさと納税」「どこでも納税」「ふるさと納税百選」「Yahoo!ふるさと納税」「Amazonふるさと納税」を導入 令和7年度:「ふるさと応援納税」を導入 令和6年度利用実績:98,803件件中98,644件 (利用率99.8%) (3)返礼品の充実 ・返礼品のラインナップをさらに拡充 《参考》 令和5年度返礼品総数:1,243品目 令和6年度返礼品総数:2,295品目 ・返礼品の公募については随時受付し、都度更新する。 (4)クラウドファンディング(CF)型ふるさと納税の活用 ・クラウドファンディング型ふるさと納税を効果的に活用する方法を検討し、ふるさと納税全体の拡充を図る。	◎令和7年度実績 115,854件 2,449,879,774円 (1)積極的なPR活動の展開 ・ふるさと会、同窓会等へのパンフレットの送付 在京釧路会、関西釧路会等 ・首都圏でのふるさと納税でのリアルイベントや東京駅前でのPR ・ふるさと納税大賞実施やPRキューブの作成 (2)寄附しやすい環境づくり ①インターネットを介した申込みフォームの導入 ◎令和7年度利用実績:115,854件中115,726件 (利用率99.9%) ②新たなポータルサイトの導入 ◎計画どおり、新たに現地決済型のサイトを導入し、寄附者の選択肢を増やすことができた。 (3)返礼品の充実 中間事業者だけでなく、市役所も積極的に返礼品提供事業者を訪問し、返礼品づくりの支援や既存返礼品のブラッシュアップを行った。 ・返礼品のラインナップ拡充 ◎令和7年度返礼品総数:3,074品目 ※令和7年度新規登録返礼品:779品目 ※定期便や旅行型返礼品の拡充 ・返礼品の公募随時受付 ◎事業者からの企画提案を随時受付し審査・更新 (4)クラウドファンディング(CF)型ふるさと納税の活用 ・令和7年度実績なし。引続き、活用可能事業を検討する。 ふるさと納税の推移 <table><tr><th>年度</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th></tr><tr><td>金額(千円)</td><td>2,200,520</td><td>1,936,465</td><td>2,449,880</td></tr><tr><td>件数(件)</td><td>110,034</td><td>98,803</td><td>115,854</td></tr></table>	年度	R5	R6	R7	金額(千円)	2,200,520	1,936,465	2,449,880	件数(件)	110,034	98,803	115,854
年度	R5	R6	R7										
金額(千円)	2,200,520	1,936,465	2,449,880										
件数(件)	110,034	98,803	115,854										

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	拡充	令和7年度実施事業評価結果		評価	拡充
課題	・ 鮭など主力返礼品のリピート率が減少したことや、効果的な広告運用ができていなかったこと等により、令和5年度に比べて寄附額が減少した。 ・ 返礼品提供事業者への訪問や返礼品開発、PRについて、市役所職員がより積極的に関与する必要がある。			課題	・ 返礼品提供事業者や中間事業者と積極的に関わっていく中で、在庫確保や広告運用の機動的な対応課題を感じた。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 市役所職員が積極的に関わり、マーケット分析による返礼品づくりの支援や、既存返礼品のブラッシュアップ、広告戦略の立案を行う。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 令和7年度末に選定した新たな中間事業者と一体となって、返礼品の在庫や広告運用について密に連携をとり、機会損失とならないよう、取り組んでいく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	宿泊税導入事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	財政部市民税課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	令和8年4月の宿泊税導入に向けて、宿泊事業者及び宿泊者に制度を周知するとともに、導入への理解が得られるよう説明を行う。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)			11,161	1,300
財源	一般財源 (千円)	0	11,161	0
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			1,300
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	0	9,144	3,856
①	職員数 (人)		1.2	0.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		74.3	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
各種媒体を活用し、制度の周知を図るとともに賦課事務に係る経費を計上し、導入に向けた準備を万全なものとする。 (1) 宿泊事業者向け ①説明会の開催 ②手引き等の作成 ③システム改修に係る補助金の交付 (2) 宿泊者向け ①周知チラシ・ポスターの作成 (3) 市民向け ①広報くしろへの記事掲載 (4) 賦課事務にかかる経費 ①宿泊税収納システムの導入 ②申告書等の作成	(1) 宿泊事業者向け ①釧路市宿泊税事業者説明会の開催 令和7年7月に各地域の4会場（阿寒湖畔、阿寒、音別、釧路）で計6回開催。53名参加。 ②手引き等の作成 全宿泊事業者へ郵送にて配布するとともに、HPに掲載し、周知を図った。 ③システム改修に係る補助金の交付 市の宿泊税導入に伴い発生する宿泊事業者のシステム改修等に係る経費に対して補助金を交付した。 ※道補助の上乗せ補助 ・補助率1/2、補助限度額50万円 ・申請期間：令和7年10月1日～令和8年2月13日 ・申請件数：22件 (2) 宿泊者向け ①周知チラシ・ポスターの作成、宿泊施設・観光施設へ設置 ・多言語対応（日本語・英語・簡体字・繁体字・韓国語）のチラシを作成し、宿泊施設及び観光施設に設置した。（5,000部） ※ポスターについては道が市町村税の内容を含めて作成したことから、同ポスターを活用し周知を図った。 (3) 市民向け ①広報くしろへの記事掲載 ・広報くしろ3月号に記事を掲載し、導入について市民に周知した。 ②HPへの掲載 ・宿泊事業者向けのほか、市民・宿泊者向けのページを作成し、制度内容や使途について周知を図った。 (4) 賦課事務にかかる経費 ①宿泊税収納システムの導入 ②申告書等の作成

▼宿泊税周知チラシ



3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	令和7年度実施事業評価結果	評価	継続維持
課題	評価を実施していないため、空欄となります		課題	・更に宿泊事業者及び宿泊者の理解が得られるよう、丁寧な制度周知及び説明が必要である。	
今後(令和8年度以降)の方向性	評価を実施していないため、空欄となります		今後(令和9年度以降)の方向性	・新規宿泊事業者を把握し申告と納入をお願いするとともに、宿泊事業者及び宿泊者の理解が得られるよう、引き続き制度周知を図る。	

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	スマート自治体推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総務部情報システム課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市デジタル・トランスフォーメーション(DX)実行計画
目的と概要	「スマートフォンの中に市役所がある」を基本理念に、「書かせない」、「待たせない」、「どこでもできる」、市民にとって便利で身近な市役所(「市民ファースト」)と効率的かつ効果的な行政サービスの提供(「行政のスマート化」)を推進するため、デジタル技術の活用を通じた従来の業務の改善、職員の働き方改革、新たな価値の創出を行う。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		24,341	19,206	16,330
財源	一般財源 (千円)	24,341	19,206	16,330
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	29,552	30,480	15,422
①	職員数 (人)	4.0	4.0	2.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		127.9	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①行政手続きのオンライン化 ・施設予約システムやフォーム作成ツールなどを活用した庁内課室所管の各種手続きや施設予約のオンライン化を推進する。	①行政手続きのオンライン化 ・オンライン手続きが177件→313件に増加した。
②デジタル人材の確保及び育成 ・スマート自治体プロジェクトチーム(PT)の運営及び外部人材である地域活性化企業人をDXプランナーとして採用。	②デジタル人材の確保及び育成 ・PTを4回開催、地域活性化企業人を1名継続採用(R5～R7)。 ・庁内公募による「BPR研修会」を実施し、チームで業務改善に取り組んだ。 ◎参加課・業務数:5課6業務  BPR研修の様子
③AI・RPAの利用拡充 ・RPAやAI-OCRを活用し、申請書の入力等の業務効率化を図る。 ・生成AIの利活用に関する研修の実施やワーキンググループの構築による庁内実証実験を実施する。	③AI・RPAの利用拡充 ・RPA及びAI-OCRの導入課と業務を拡充するとともに、生成AIガイドラインを定めて全庁展開し生成AIの本格利用を開始した。 ◎RPA導入:43件 AI-OCR活用:14課 生成AI利用者:371名
④デジタルデバйд(情報格差)対策 ・地域おこし協力隊を活用し、アウトリーチ型のデジタル・デバйд(情報格差)対策を行う。	④デジタルデバйд(情報格差)対策 ・「スマホ相談員」による相談窓口の設置のほか、巡回相談会の実施や、町内会などの地域コミュニティからの依頼による出前講座を実施した。 ◎相談対応件数:262件  スマホ相談員出前講座の様子
⑤庁内事務作業見直し ・ノーコードツールをはじめとしたデジタル技術を活用し、業務効率化とデジタル人材の育成を図る。	⑤庁内事務作業見直し ・LoGoフォームなどのツール活用により、各種手続きや電話問合せをオンライン化するなど、庁内における業務効率化を促進した。  ベストプラクティス
※参考資料 ・取組の全体像は資料を参照。   釧路市DX推進方 釧路市DX実行計画	※参考資料 ・釧路市役所DX・業務改善ベストプラクティス。  ベストプラクティス

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	拡充	令和7年度実施事業評価結果		評価	拡充
課題	・推進方針の基本理念である「スマートフォンの中に市役所がある」、また基本方針の「市民ファースト」及び「行政のスマート化」を具体化できる職員の育成が必要。 ・より効果的なデジタルデバйд対策を進めるため、スマートフォン利活用に関する市民の実態の把握が必要。			課題	・急速に進展する生成AI等のデジタル技術を活用し、庁内業務や市民サービスへ効果的に取り入れ、DXを一層加速させる必要がある。 ・基本方針「市民ファースト」「行政のスマート化」を実践できる職員の育成と、業務改善を支える体制づくりが必要。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・デジタル人材として、業務改善の手法を学んだ「具体的なアクションをおこす職員」を育成し、「行政のスマート化」を進める。 ・生成AI等の新たな技術を活用しながら、業務効率化をはじめとした庁内のDX化に取り組む。 ・スマートフォンの利活用に関する実態把握と、持続可能なデジタルデバйд対策の検討を行う。			今後(令和9年度以降)の方向性	・職員が安心して業務改善に取り組める職場環境の実現を目指し、生成AIをより活用するための安全で便利な環境の充実と、職員のリテラシーの向上を図るとともに、市民との接点となるフロントヤードにおけるAI活用の検討を進める。 ・DXに係る相談及び伴走支援体制を整備し、ツール研修や業務改善支援を行うための知識と経験の蓄積を図り、「行政のスマート化」をより一層進める。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	書かないワンストップ窓口導入事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部戸籍住民課 こども保健部医療年金課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市デジタル・トランスフォーメーション(DX)実行計画
目的と概要	転入や婚姻等のライフイベントに係る窓口手続きについては、煩雑な申請書作成や複数の窓口訪問等、市民の負担が大きい状況にあるため、窓口業務支援システム等の導入による「書かないワンストップ窓口」サービスの実装及びセミセルフレジの導入により、申請書記載の手間、窓口滞在時間の長さ、手続き漏れのリスク等の課題を解決し、窓口サービスに対する市民満足度の向上を図る。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)			54,602	8,389
財源	一般財源 (千円)	0	7,163	0
	国道支出金 (千円)		25,429	
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)		22,010	8,389
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	0	15,240	10,024
①	職員数 (人)		2.0	1.3
参考	市民一人あたりの費用 (円)		363.5	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市の人口 150,200 人 (R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
① 書かないワンストップ窓口サービスの実装 ・窓口業務支援システム等の導入により「書かないワンストップ窓口」サービスを実装し、煩雑な申請書作成や複数の窓口訪問等の課題を解消することで、窓口サービスに対する市民満足度の向上を図る。 ※ ワンストップ窓口のイメージ (広報くしろ令和8年2月号) たとえば…国民健康保険に加入している方が市内で引っ越しした場合 これまで 記載台で転居届を記入 番号札を発券 転居届の受付 移動 国民健康保険課窓口 申請書を記入 申請書の受付 これから 番号札を発券 転居届の作成・受付 国民健康保険の申請書作成・受付 1つの窓口で完結!!	① 書かないワンストップ窓口の導入 ・令和8年1月から書かないワンストップ窓口サービスの試験運用を実施し、2月から本格運用を開始した。 ・職員が聞き取りしながら一緒に手続きを進めていくため、申請書の内容確認と署名のみで受付が完了するほか、ライフイベントの届出に伴い必要となる手続きにおいて、可能なものは、届出と併せて受付を行うため、申請書作成や窓口を回る手間を軽減した。 ◎ 受付代行業務: 16業務 (令和8年3月末時点) ◎ 本事業の実施後に行った窓口サービスに係るアンケート調査において、約9割の方が「満足・とても満足」との回答 ② セミセルフレジの導入 ・証明書発行手数料等の支払窓口にキャッシュレス機能を付けたセミセルフレジを導入し、手数料等を自動精算とすることで、会計時の所要時間を削減等を行い、窓口サービスに対する市民満足度の向上を図る。 ③ 窓口業務の見直し ・窓口サービスに対する市民満足度の向上を図るため、上記取組と併せて、窓口業務の見直しを実施する。 ② セミセルフレジの導入 ・令和8年1月に証明書発行手数料等の支払窓口にキャッシュレス機能を付けたセミセルフレジを導入した。 ◎ 本事業の実施後に行ったセミセルフレジに係るアンケート調査において、約9割の方が「満足・とても満足」との回答 ③ 窓口業務の見直し ・ライフイベントの届出に伴い必要となる手続きについて、円滑な手続きを助長するため、おくやみハンドブックを導入するなどの見直しを実施した。 ・手続きの所要時間の短縮を図るため、バックヤード処理における動線の見直しを実施するとともに処理の一部にRPAを導入した。 ・来庁後、迷わずに目的の窓口で手続きを行うことができるように受付方法を統一したほか、市民の動線や手続きの流れの見直しを実施した。

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	令和7年度実施事業評価結果	評価	継続維持
課題	令和7年度からの新規事業のため、空欄となります。		課題	・ライフイベントの届出に伴い必要となる手続きについて、窓口業務支援システムではなく、従来通り、来庁者に記載いただいた申請書で受付している手続きや各課窓口を案内している手続きが存在する。	
今後(令和8年度以降)の方向性	令和7年度からの新規事業のため、空欄となります。		今後(令和9年度以降)の方向性	・窓口業務支援システムで作成する申請書やワンストップ対象手続きの拡充に向けた検討と併せて窓口業務の見直しを行い、窓口サービスに対する市民満足度のさらなる向上を図る。	

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	都市経営戦略プラン推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 都市経営戦略プラン
目的と概要	釧路市が将来にわたって持続的に発展していくために、平成23年度に策定した「都市経営戦略プラン」に基づき、ヒト・モノ・カネ、情報を効率的、効果的に投資し、プラス成長を目指す視点で市役所の仕事を進められるようにする。また、策定と並行して、市役所職員や市民へ「都市経営戦略プラン」の考え方を浸透させるための啓発を行う。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画

- 政策プランの推進
- ①産業連関表(平成27年)を活用した産業構造分析を行い、高付加価値化に向けた方策の検討を行う。
- ②釧路公立大学地域経済研究センターへ分析を委託する。

都市経営戦略プランとは…

釧路市が将来にわたって持続的に発展していくために、ヒト、モノ、カネ、情報を効率的、効果的に投資し、プラス成長を目指すことを目的として策定したプラン。政策プラン、市役所改革プラン、財政健全化推進プランの3つのプランで構成されている。

釧路市都市経営戦略プラン

プラス成長

③政策プラン

②市役所改革プラン

①財政健全化推進プラン

(2) 事業の実績と成果

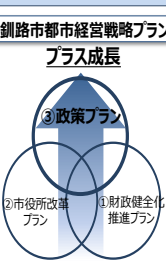
- 政策プランの推進
- 「北海道の物流における環境変化を踏まえた釧路港の今後の課題に関する研究」の実施
- ①国土交通省「貨物地域流動調査」、「ユニットロード調査」より北海道・釧路市・釧路港の物流を分析した上で、道内地域物流アンケート調査を実施し、より詳細な分析を行った。
- ②各業種の事業者へ物流ルートや北海道物流の課題と対応等についてのヒアリングを実施し北海道と道東物流の現状と課題を整理した。

●分析結果の概要

- ①北海道と釧路市の物流の概要
- 道内貨物流動は札幌、室蘭間が主力で、室蘭に道外から入った貨物を札幌に集約し、旭川、帯広、函館に輸送する。平成30年から令和5年で輸送量は減少した。
- ②道内都市別物流(アンケート調査結果)
- 釧路港を利用しない理由としては、「陸路で対応可能な為」、「該当する製品がない」、「小ロットのため」などの記述があった。
- ③物流関連事業者ヒアリングの概要
- ドライバー不足については、幹線物流や道央では比較的对応可能であるが、各地域内では、顧客に配送するドライバー不足・高齢化、事業者の業務縮小・廃業による輸送力減少が指摘された。
- ④北海道、道東物流の現状と課題
- 道東物流の課題は、人口減少による荷物減少、輸送力減少、輸送会社減少、運転手不足・高齢化による将来的な地域物流の担い手不足、全国一律の物流規制への対応の困難さ等がある。

●提言・まとめ

- ①人口減少、高齢化による物流量減少後でも持続可能な物流システムの構想
- 道東で物流を持続させる拠点としての釧路を活用する。地域の物流を断絶させないための共同ストックポイント、エリア内共同配送システムの検討が必要である。
- ②地域の実態にあわせた規制の運用等検討の必要性
- 物流業界の人口減少への対応や季節性ある荷物にあわせ、車両・ドライバーの流動性を確保するべく、地域の実情にあわせた労働時間等規制の運用や将来的な公的支援のあり方の検討が必要である。
- ③官民連携による釧路港利用促進の可能性
- 共同配送・共同保管ストックポイント検討のための官民連携物流プラットフォームの構築により、釧路港の利用の促進の可能性が考えられる。



3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果	評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果	評価	終了
課題	・「都市経営戦略プラン」の基本的な考え方に基づき、産業基盤の強化や高付加価値向上に資する取り組みを進める必要がある。		課題	・「都市経営戦略プラン」の基本的な考え方に基づき、産業基盤の強化や高付加価値向上に資する取り組みを進める必要がある。	
今後(令和8年度以降)の方向性	・「釧路市まちづくり基本構想」を推進していく中で、引き続きヒト・モノ・カネ、情報を効率的、効果的に投資しプラス成長を目指す考え方の浸透に務める。		今後(令和9年度以降)の方向性	・釧路公立大学地域経済研究センターへの分析委託については、毎年度の予算計上は廃止し、各課において必要な事項がある際に予算計上することとする。	

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	行政評価推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	限られた経営資源が効率的・効果的に活用されているかをチェックし、さらなる活用を図る意義のもと、①PDCAの考え方の定着、②限られた経営資源の効率的・効果的な投資、③市役所の仕事の「見える化」を目的に行政評価を実施する。 事務事業ごとに「主要施策成果シート」を作成し、これらを「主要施策成果報告書」にまとめ、地方自治法第233条第5項に基づき、決算資料として議会に提出するとともに、ホームページを通じて公表する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		108	117	115
財源	一般財源 (千円)	108	117	115
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	3,694	3,810	3,856
①	職員数 (人)	0.5	0.5	0.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		0.8	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①PDCAの考え方の定着 釧路市で行っている下記の事業に対して評価を行う。 - 令和6年度当初予算の主要事業 (「予算(案)の概要」掲載事業) - 令和6年度補正予算で追加された主要事業 - 令和5年度から令和6年度に繰越をした繰越明許事業 ②評価結果の令和8年度予算への反映 評価結果を予算編成に生かすため、予算要求資料に記載 ③市役所の仕事の見える化 ・主要施策成果報告書の作成 ・同報告書の市ホームページへの掲載	①PDCAの考え方の定着 釧路市で行っている下記の事業の「主要施策成果シート」を作成し、評価を実施した。(合計239事業) - 令和6年度当初予算の主要事業 (「予算(案)の概要」掲載事業) - 令和6年度補正予算で追加された主要事業 - 令和5年度から令和6年度に繰越をした繰越明許事業 ②評価結果の令和8年度予算への反映 評価結果が予算編成に生かされるよう、行政評価で用いた「事業の目的と概要」「事業の実績と成果」等を予算要求資料に転記し、翌年度予算との整合性を図った。 ③市役所の仕事の見える化 ・令和7年9月定例市議会において、「主要施策成果シート」を1冊にまとめた「令和6年度主要施策成果報告書」を提出 ・同報告書を市ホームページへ掲載し公表

PDCAとは

事業計画(Plan)を立て、事業を実施し(Do)、取組実績・成果を整理し、課題を明らかにし(Check)、次につなげる(Action)という継続的な業務改善方法のこと。

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・引き続き、予算編成との連動性や成果重視の予算編成の取り組みについて、行政評価が機能する仕組みを検討する必要がある。			課題	・引き続き、予算編成との連動性や成果重視の予算編成の取り組みについて、行政評価が機能する仕組みを検討する必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・「釧路市まちづくり基本構想」における中期実施計画と、「主要施策成果報告書」の連動を図り、引き続き行政評価を行っていく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・「釧路市まちづくり基本構想」における中期実施計画と、「主要施策成果報告書」の連動を図り、引き続き行政評価を行っていく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	個人番号カード交付等事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部戸籍住民課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 マイナンバーカード交付円滑化計画(内閣府、総務省)
目的と概要	国は令和4年度末までに、ほぼ全ての国民がマイナンバーカードを保有するとの方針に基づき普及に取り組んできており、令和5年度以降については、交付円滑化計画の継続による未取得者への普及とともに、有効期限を迎える既取得者の更新手続きが円滑に行える申請・交付体制を整備することで、マイナンバーカードの普及促進を進めるものである。

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
○個人番号カード申請・交付体制の整備 マイナンバーカードの円滑な申請・交付のための窓口体制及び職員が出向き申請をサポートする出張申請の体制を充実させる。 (1) 申請・交付等における窓口等の設置 ◎交付窓口の夜間(毎週水曜日)、休日(毎週土曜日)実施。 引き続き、釧路市マイナンバーコールセンターを開設。 (2) 郵便局への申請サポート業務の委託 ◎より身近な場所でカードの申請サポートが利用できるよう、市内3か所(釧路地区)の郵便局に申請サポート業務の委託を拡充。電子証明書の更新業務を7月より委託開始。 (3) 申請サポート体制の充実 ◎職員による福祉関係施設への出張申請の体制を維持し、郵便局での申請サポート体制の拡充を周知。 (4) その他 ◎令和7年度 会計年度任用職員15人体制 ・更新担当4人 ・申請・交付・出張申請等担当11人	○申請・交付体制整備の効果 実施結果は以下のとおり 補助率10/10 (1) 申請・交付等における窓口等の設置 ◎釧路市マイナンバーカードセンター(西部地区)の閉所に伴い、夜間(毎週水曜日)、休日(毎週土曜日)の窓口を拡充した。釧路市マイナンバーコールセンターについては、引き続き開設した。 ※西部地区のカードセンターは令和7年3月28日閉所。 ◎実績 交付枚数月平均1,561件 申請件数月平均1,591枚 ◎令和7年度末で、交付164,000件、交付率90.8% ◎前年度対比で18,735枚の増、0.9ポイントの増 ◎令和7年7月より、新たに市内3か所の郵便局において更新等の業務を開始した。 (2) 郵便局への申請サポート業務の委託拡充 ◎申請サポート実施郵便局 (大楽毛、桜ヶ岡、イオン昭和内) ◎申請サポート件数169件 (3) 申請サポート体制の充実 ◎来庁申請サポート 7,003件 ◎団体申請サポート 1団体11件 ◎上記サポートのうち、郵送交付2,596件 ※カードの受け取りが自宅が可能 (4) その他 ◎令和7年度 会計年度任用職員15人体制 ・更新担当4人 ・申請・交付・出張申請等担当11人

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		142,816	108,670	112,455
財源	一般財源 (千円)	0	△ 2,837	0
	国道支出金 (千円)	142,513	111,240	112,179
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	303	267	276
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	23,642	24,384	24,675
①	職員数 (人)	3.2	3.2	3.2
参考	市民一人あたりの費用 (円)		723.5	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	- 電子証明書の更新等の対応 - 事務の増加に伴う職員配置			課題	- 電子証明書の更新等の対応 - 事務の増加に伴う職員配置		
今後(令和8年度以降)の方向性	全国的にもマイナンバーカードの普及が進み、今後は新規取得者に係る普及の取り組みから、既取得者の変更・更新へ業務の比重が移ると見込まれることから、国の示す方向性及び予算編成の動向に注視し、窓口及び人員体制を判断することとなる。			今後(令和9年度以降)の方向性	全国的にもマイナンバーカードの普及が進み、今後は新規取得者に係る普及の取り組みから、既取得者の変更・更新へ業務の比重が移ると見込まれることから、国の示す方向性及び予算編成の動向に注視し、窓口及び人員体制を判断することとなる。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	財産管理事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	財政部市有財産対策室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 公共施設等適正化計画 公共施設等見直し指針 都市経営戦略プラン
目的と概要	自主財源の確保と保有資産の縮減のため、未利用地等の処分を推進する。

2 当初計画と実績・コスト・成果

事業名	財産管理事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	財政部市有財産対策室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
	第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
	公共施設等適正化計画
	公共施設等見直し指針
	都市経営戦略プラン
目的と概要	自主財源の確保と保有資産の縮減のため、未利用地等の処分を推進する。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		6,422	3,634	7,737
財源	一般財源 (千円)	△ 5,359	△ 646	△ 18,081
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	11,781	4,280	25,818
	【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)
参考	職員人件費 (千円)	7,388	7,620	7,711
①	職員数 (人)	1.0	1.0	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		24.2	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

(1)年度当初計画 〈市有地売却促進〉	(2)事業の実績と成果 〈市有地売却促進〉
○一般競争入札 (1)一般競争入札 ・入札予定 2物件(4筆、905.42㎡)	○一般競争入札 (1)一般競争入札 ・入札実施 2物件(2筆、904.66㎡) ◎売却物件 1物件(1筆、116.62㎡)
(2)一般競争入札(インターネット公売) ・入札予定 8物件(9筆、9,800.97㎡)	(2)一般競争入札(インターネット公売) ・入札実施 7物件(8筆、9,402.84㎡) ◎売却物件 なし
※ 入札不調となった物件は、価格固定先着順で売却促進	
○随意契約 (1)価格固定先着順による売却 ・募集物件 一般競争入札において入札不調となった物件	○随意契約 (1)価格固定先着順による売却 ・実施物件 8物件(9筆、10,190.88㎡) ◎売却物件 なし
(2)不動産媒介制度による売却 ・媒介依頼物件 (1)の募集物件	(2)不動産媒介制度による売却 ・媒介依頼物件 (1)の実施物件(8物件) ◎売却物件 なし
	(3)年度当初計画以外の売却 ◎売却物件 なし
【売却収入予算合計】 ・一般競争入札 24,621千円 ・随意契約 計画なし ・合計 10物件(13筆、10,706.39㎡) 24,621千円	【売却収入実績合計】 ・一般競争入札 4,280千円 ・随意契約 なし ・合計 1物件(1筆、116.62㎡) 4,280千円

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・売却に適した土地の減少 ・売却に至らなかった物件の処分			課題	・売却に適した土地の減少 ・売却に至らなかった物件の処分		
今後(令和8年度以降)の方向性	・様々な処分方法の検討及び売却促進に向けた取組の継続			今後(令和9年度以降)の方向性	・様々な処分方法の検討及び売却促進に向けた取組の継続		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	定住自立圏構想等推進事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 定住自立圏構想等推進要綱(総務省)
目的と概要	今後、人口減に伴う税収の減少などにより、全ての市町村ごとにフルセットの生活機能を整備・維持していくことが困難な状況となることが予想されるため、定住自立圏構想における圏域の中心市である釧路市の機能と近隣町村の機能とが協定によって連携し、「定住」のために必要なさまざまな機能を圏域全体で確保することを目指す。

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		84	86	98
財源	一般財源 (千円)	84	86	98
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)			
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	3,694	3,810	3,856
①	職員数 (人)	0.5	0.5	0.5
参考	市民一人あたりの費用 (円)		0.6	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
1 連携事業の推進 圏域の釧路市と管内町村とが締結した協定に基づき、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「資源制約に対応するための圏域マネジメント等」の3つの政策分野について取組を推進する。 2 協定の締結、変更等 この協定は、圏域全体の定住に必要な都市機能の確保、充実を図り、圏域住民が安心して暮らし続けられる圏域とするために締結するものである。 これまで釧路市と管内全ての町村との間で協定が締結された。今後、必要がある場合には変更を行うこととしている。 ※ 釧路市との協定締結状況(締結順) 平成22年 釧路市、浜中町、鶴居村、白糠町、厚岸町 平成23年 標茶町、弟子屈町 ※共生ビジョンの期間は概ね5年とされており、現在の共生ビジョンは令和7年度から令和11年度までの5年間。	1 連携事業の実施 (1) 定住自立圏の構想の推進に要する経費(特別交付税額) 令和7年度: 160,814千円(令和6年度: 160,634千円) (2) 令和7年度連携内容(3つの政策分野から抜粋) ◎【生活機能の強化】初期救急及び広域救急医療体制の充実 ・釧路市夜間救急センター利用件数 R7: 6,035件(うち管内町村873件) ◎【結びつきやネットワークの強化】移住・長期滞在に関する連携 ・圏域内での長期滞在者数 R7: 2,503人(うち管内町村139人) ◎【資源制約に対応するための圏域マネジメント等】 宣言中心市等における人材の育成 ・宣言中心市等における人材育成等のセミナーへの参加人数 R7: 1,618人(うち管内町村72人) 2 協定の締結、変更等 ・釧路市厚岸町定住自立圏形成協定の一部を変更する協定 (令和7年9月17日締結) ・釧路市弟子屈町定住自立圏形成協定の一部を変更する協定 (令和7年9月17日締結) 3 会議の開催 ・定住自立圏共生ビジョン懇談会 令和7年10月22日開催【写真】 令和7年12月～令和8年1月 ※書面開催  ・管内首長意見交換会 令和7年8月22日開催 ※圏域内の市町村長が出席する「釧路地域づくり連携会議」(主催: 北海道及び北海道開発局)と兼ねて開催

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 協定に基づく連携事業による、成果の検証を行い、課題等の解決策を、ビジョンにも反映していく必要がある。			課題	・ 協定に基づく連携事業による、成果の検証を行い、課題等の解決策を、ビジョンにも反映していく必要がある。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ ビジョンの検証を行うなかで生じた課題を解決するために、新しい取組の検討など、他町村との連携を深めながら定住に必要な都市機能の確保、充実を図っていく。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ ビジョンの検証を行うなかで生じた課題を解決するために、新しい取組の検討など、他町村との連携を深めながら定住に必要な都市機能の確保、充実を図っていく。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	職員研修事業＜当初＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	総務部職員課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	・釧路市人材育成基本方針の目的を達成するために、職員個々の能力、適性、思いなどを可視化し、必要な研修や育成方法の洗い出しを行うとともに、各職員のキャリアデザイン形成を支援 ・エンゲージメントの把握による職員間の理解や会話、自己啓発の促進と成長実感によるモチベーション向上 ・職員の適性を把握したうえでのキャリア形成各種施策の実施 ・多様なニーズに応えるオンライン研修の併用、DX人材の育成に寄与 ・職員の学ぶ意欲を高めるため、職員ニーズに応える予算措置、環境整備

【予算・決算データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
事業費 総額 (千円)		8,736	7,537	7,120
財源	一般財源 (千円)	8,466	7,237	7,000
	国道支出金 (千円)			
	地方債 (千円)			
	使用料・手数料 (千円)			
	その他特定財源 (千円)	270	300	120
【参考データ】		令和6年度 (決算額)	令和7年度 (決算額)	令和8年度 (予算額)
参考	職員人件費 (千円)	5,172	5,334	7,711
①	職員数 (人)	0.7	0.7	1.0
参考	市民一人あたりの費用 (円)		50.2	
②	市民一人あたりの将来負担額 (円)		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人(R8.3末現在)				
注2) 市民一人あたりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
①タレントマネジメントシステムの活用 ・人材情報を可視化し、実務の中で人材情報を活用した効果的な育成システムを構築することを目的に、タレントマネジメントシステムを活用する。 ②職員適性検査の実施 ・自分の適性を再確認し、キャリアビジョンを形成していくことを目的に、若手職員に対しSPI3を実施する。 ③研修制度の充実 ・社会経済情勢の急速な変化に伴い、複雑・多様化する行政課題の解決に迅速に取り組むための能力養成や、知識の習得を目的に、時間や場所にとらわれず主体的に多様な講座を受講できるようe-ラーニングによるオンライン研修を実施する。 ④研修機関への派遣研修の実施 ・職員のキャリア形成を推進するため、研修機関に職員を派遣する。 ⑤資格取得経費の助成 ・職員が公務遂行上有用と認められる資格を取得した場合において、取得に要した経費を助成する。	①タレントマネジメントシステムの活用 ・タレントマネジメントシステム「kaonavi(カオナビ)」を活用し、人事評価や、個人の特性を9つに分類する性格診断テスト、適性検査の結果などを蓄積した。 ②職員適性検査の実施 ・30歳以下の職員182名に対し、SPI3による適性検査を実施した。 ・30歳以下の職員を対象に、上記SPI3の検査結果を確認しながら、自らキャリアビジョンを形成する研修を実施した。 ③研修制度の充実 ・e-ラーニングによるオンライン研修の参加者数 階層別研修 延301名※ 受講希望者 延21名 ※実施研修: マネジメント研修、新任係長研修、新任主査研修、新任主任研修、ブラッシュアップ研修、新採用研修 ④研修機関への派遣研修の実施 ・希望者等を以下研修機関へ派遣した。 市町村アカデミー 7名 北海道市町村職員研修センター 8名 政策力形成ゼミナール 1名 キャリア開発塾 1名 外国派遣研修 1名 地方創生塾 1名 国土交通大学校 1名 視察 4名 ⑤資格取得助成制度の助成 ・助成者数 10名
※タレントマネジメントシステム: 従業員の個性やスキルといった人材情報を一元化・見える化し、組織や人材のパフォーマンス最大化するためのシステム。 ※キャリアビジョン: 仕事や人生において「将来的にこうなりたい」と思い描く姿のこと。仕事に限定されず、人生のライフプランや大切にしたい価値観などを含めた未来像を描くものとされている。 ※エンゲージメント: ビジネスでは主に従業員の会社に対する「愛着」や「思い入れ」などの意味で使用される。従業員の企業に対する貢献意欲や業績の	

3 事業実施上の課題と今後(令和9年度以降)の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	継続維持	令和7年度実施事業評価結果		評価	継続維持
課題	・ 自ら考え行動し、問題解決能力や主体性をもった職員を養成し、将来的な本市の行政を担うための人材育成が必要。			課題	・ 自ら考え行動し、問題解決能力や主体性をもった職員を養成し、将来的な本市の行政を担うための人材育成が必要。		
今後(令和8年度以降)の方向性	・ 本市の行政を担う職員としての能力向上を図るとともに、職員が自発的にキャリアの形成を行えるよう、多様な講座を受講可能なe-ラーニングの受講や、公務遂行に必要な資格取得への支援などを継続して実施する。			今後(令和9年度以降)の方向性	・ 本市の行政を担う職員としての能力向上を図るとともに、職員が自発的にキャリアの形成を行えるよう、多様な講座を受講可能なe-ラーニングの受講や、公務遂行に必要な資格取得への支援などを継続して実施する。		

令和7年度実施事業 主要施策成果シート

1 事業名等

事業名	マーケティング戦略推進事業＜6月補正＞＜9月補正＞
分類	令和7年度予算の主要事業
所管課・室	マーケティング戦略室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第3期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	＜長編映像制作事業＞ 釧路市の認知度向上、市民のシビックプライド（郷土愛）醸成、観光振興にも資する展望を描くことを目的に、釧路市シビックプライド醸成長編映像制作実行委員会が実施する映像制作・配信を行う取組を支援する事業 ＜長期的イメージづくり＞ 釧路市の認知度を向上させ、訪問、滞在、移住、ふるさと納税の各分野において「選ばれるまち釧路市」を目指すために、釧路市の価値を表現したブランド立ち上げ及びマーケティング戦略の策定、ターゲットに対するプロモーションを実施する事業

2 当初計画と実績・コスト・成果

(1) 年度当初計画	(2) 事業の実績と成果
＜長編映像制作事業＞ 釧路市シビックプライド醸成長編映像制作実行委員会へ補助金を支出し、WOWOWプラスと連携した映像制作実現化を支援。本事業の核となる市民参加も促しつつ映像制作を行い、WOWOWプラスを中心とした有力オンデマンド配信チャンネルにて放映。 市民、市外に住む釧路出身の若者はもとより、視野を広げ国内のより多くの人に届ける。また、作品の公式ウェブサイトを開設し、本事業の情報発信基盤として整備する。 ＜長期的イメージづくり＞ 釧路市の価値を表現する長期的イメージ及びマーケティング戦略策定共創業務受託事業者である共創パートナーの選定。共創パートナー及びアドバイザーとともに下記取組を令和7年度～8年度の2か年で実施予定。 ・キックオフ市民セミナー周知、開催（R7） ・市民参加型ワークショップ開催（R7～8） ・データ分析（R7～8）	＜長編映像制作事業＞ 釧路市シビックプライド醸成長編映像制作実行委員会へ補助金を支出し、WOWOWプラスと連携した映像制作実現化を支援。なお、補助金による支援は令和7年度のみ。 ・2026年3月20日よりイオンシネマ釧路にて先行上映開始 2026年3月20日～2026年3月31日までの12日間において動員数2,113人。 ・2026年3月30日、WOWOWプラスにて放映 ＜長期的イメージづくり＞ 2か年事業の1年目となる令和7年度は、共創パートナーとしてプロポーザル審査会において選定された、株式会社新生釧路支社を代表とするコンソーシアムと業務委託契約。対外的な当取組名を「KUSHIRO BRANDING PROJECT」とし、キックオフセミナー及び市民参加型ワークショップを開催。市民の機運醸成及びブランド立ち上げのための素材収集に着手した。 ・「デザイン経営」で築く釧路ブランドキックオフセミナー 概要：2月にスタートする市民ワークショップのトライアル版として開催。デザイン経営やマーケティングについての講演を行い、当取組への市民の参加機運醸成を行った。 開催日：2025年11月25日（火） 場所：釧路市観光国際交流センター/オンライン 参加者数：約150名 ・釧路市のミライをつくる市民ワークショップ（全4回、R7は2回実施） 概要：無作為抽出した市民2千名から抽選で選出した50名（移住者含む）に庁内関係課職員も加え、様々な目線から釧路市の価値や魅力を、抽出。市民の意見を素にしたブランド立ち上げの素材収集及び市民自身が主体的に当プロジェクトに関わる場とする。 開催日：（第1回）2026年2月1日（日） （第2回）2026年3月15日（日） 場所：釧路市役所防災庁舎5F会議室

【予算・決算データ】		令和6年度 （決算額）	令和7年度 （決算額）	令和8年度 （予算額）
事業費 総額			79,000	20,013
財源	一般財源	0	0	13
	国庫支出金		37,000	
	地方債			
	使用料・手数料			
	その他特定財源		42,000	20,000
【参考データ】		令和6年度 （決算額）	令和7年度 （決算額）	令和8年度 （予算額）
参考	職員人件費	0	12,192	12,338
①	職員数		1.6	1.6
参考	市民一人あたりの費用		526.0	
②	市民一人あたりの将来負担額		0.0	
注1) 釧路市民の人口 150,200 人（R8.3末現在）				
注2) 市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。				

3 事業実施上の課題と今後（令和9年度以降）の方向性

令和6年度実施事業評価結果		評価	令和7年度実施事業評価結果		評価	拡充
課題	令和7年度からの新規事業のため、空欄となります。		課題	・ KUSHIRO BRANDING PROJECTの市民認知度の向上及び、地元企業・団体・庁内関係課との連携関係構築		
今後（令和8年度以降）の方向性	令和7年度からの新規事業のため、空欄となります。		今後（令和9年度以降）の方向性	・ R8年度に策定する（仮称）マーケティング戦略及びプロモーション方針を用いた地元企業・団体・庁内関係課への周知活動と連携事業の実施 ・ 長編映像制作事業によける実行委員会への補助金は令和7年度で終了。		